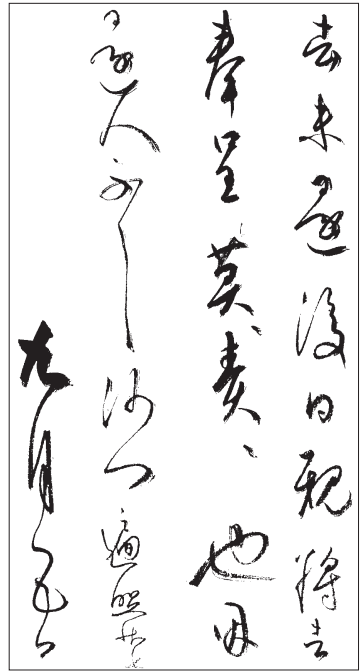


◆半紙四行たて書きに臨書して下さい。出品料400円

風信帖 空海筆



- 1、字句 去未還後日親將去奉呈莫責莫責也。因還人不具沙門遍照狀上九月五日
- 2、形式 半紙タテ使用。原帖通り四行に臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観 風信帖も最後となります。そこで今回は、ほぼ原寸に近い形で臨書して戴きたいと思えます。三通目の「忽恵帖」は他の二通よりも草書が多く使われています。墨継ぎも「去・奉・九」と明瞭であり、墨量の多い部分は重厚に、墨量が少なくなるにつれ鋒先を引き上げ軽妙な筆致で貫かれています。しかし、軽妙といっても決して弱いものではなく、鋭く、張りのある線で書かれています。また「還人」以下の二字連綿や、「遍照狀上」・「九月五日」の四字連綿は、無理のない絶妙な連綿線で大いに参考になるのではないかと思います。
- 4、各字のポイント

去 横画の方向の変化。未 縦画は横画からの筆意を受け裏側の面を使って運筆。還 起筆に弾力を利かせた筆致。將 偏の縦画と隣の縦画でバランスを保つ。奉 三本の横画の変化に注目。右払いが極度に上がっている為、最終画は右に寄りバランスを保つ。呈 「口」と「王」に開きあり。責 三本目の横画強い右上がり、下部は中心が右に寄る。也 内に大きな空間を抱いている。因 「大」の位置を下げ、左上に大きく余白を取る。還 「四」から離れ、下から入筆、筆画をまとめ、之繞は上から掬うように。人 「還」から一気に一画目。不 二画目しっかり筆を突き、反動をつけ次画へ、筆を返して「具」に連綿。具 「不」からの連綿線を受け、微妙に変化させ数呼吸にて運筆。九 しっかり筆を下ろし連筆。二画目は右下がり。

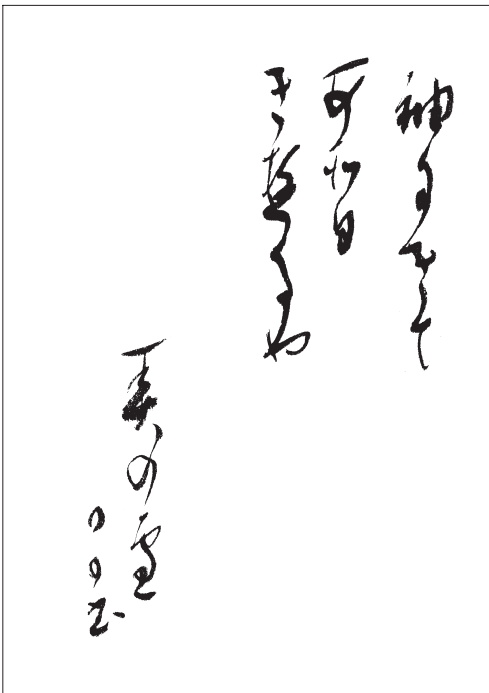
昇試第三部 (漢字・かな) (予告) (三月二十二日締切)

平岡華雪先生書 琴を弄すは宜しく夜に在るべし(宋之問)



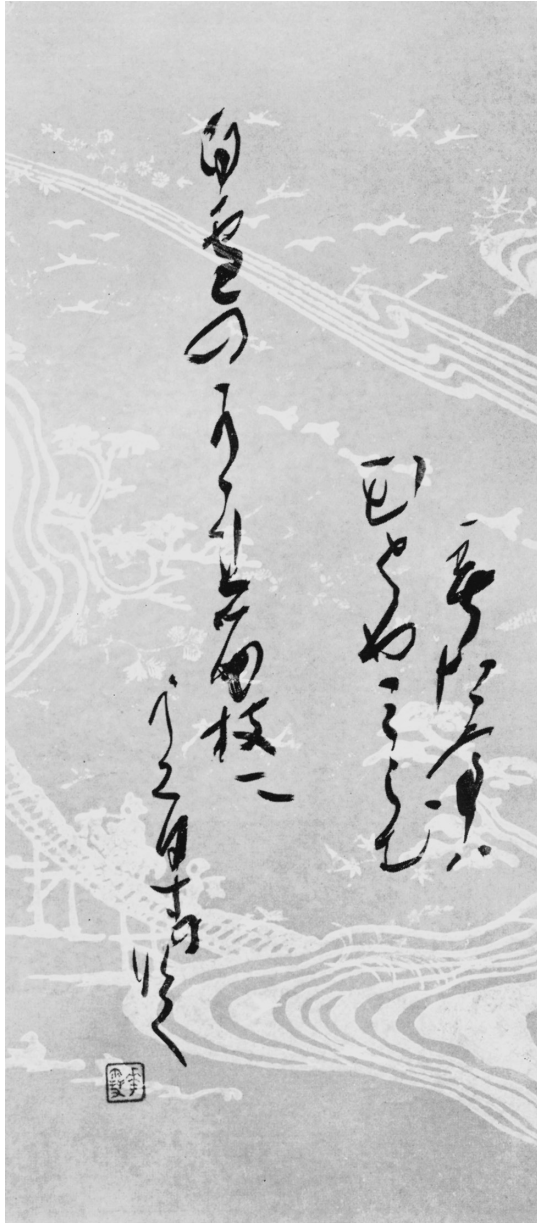
訳：琴をかなでるのは夜がよい。

平岡華雪先生書 袖に来て遊び消ゆるや春の雪(虚子)



選書春己新

平岡華雪先生書



昨年の創刊70号記念誌上展では、熱いご支援・ご協力をいただき、予期以上の成果を達成することができました。厚く感謝の意を呈したいと思います。

なお、来年はすでに紹介の通り、本会創立60周年に当たり「記念書道展」を上野の森美術館にて開催いたします。各位のさらなる参画出品を改めて期待申し上げます。ついでには本年の一年間は書展へ向けての充電期とし、丑歳に因み牛つと引き締め、着実な「書」に向かつて歩々踏みしめられるよう念じて居ります。

— 会長 —

春たてば
花とや見らむ

白雪の

かけれる枝に
うぐひすの鳴く

（古今和歌集）
素性法師

高橋香樹先生書



長生安樂富貴尊榮 (鬼谷子)

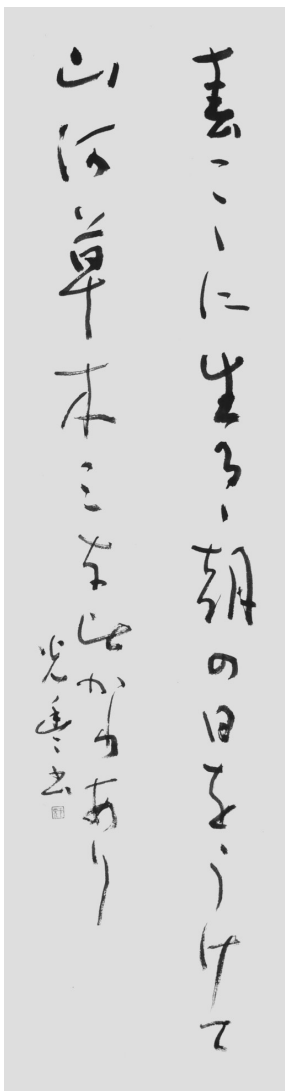
星野春陽先生書



一花開天下春

(虚堂録)

絹村光豊先生書



春ここに生る朝の

日をうけて

山河草木みな光あり

(佐々木信綱)

(今月は新春書選の作品を随意部参考とします。)

A

鈴木静村書

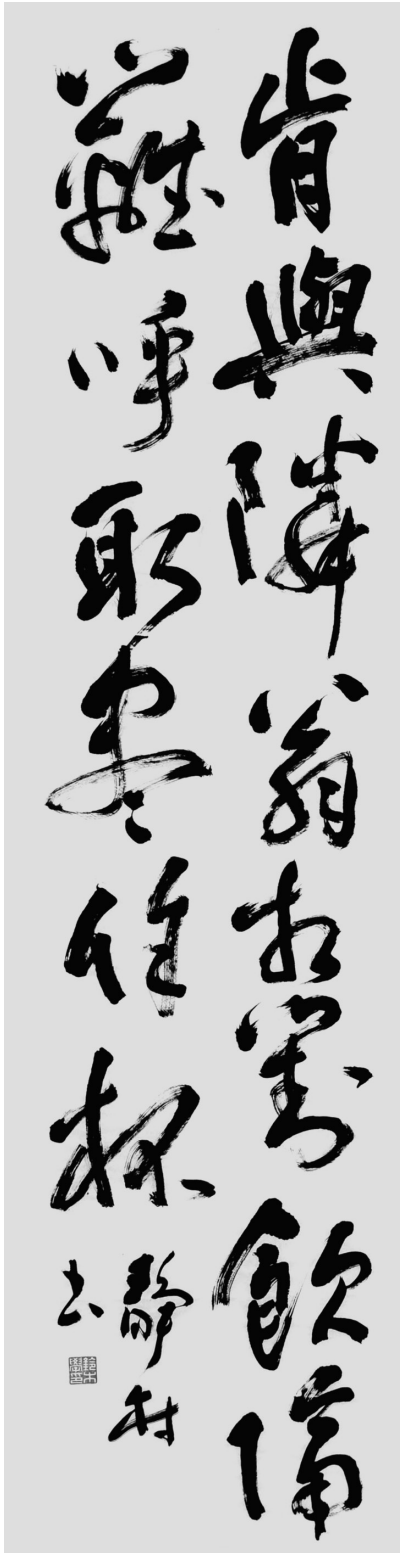
肯與隣翁相對飲 隔離呼取盡餘杯 (杜子美)
肯て隣翁と相對して飲まんや、籬を隔てて呼び取りて余杯を尽くさしめん。



B

概観

縦画の勁さ、引き緊まりは作品表現上の主要ポイント。作品を掲げ見入っていると、まずこの縦画の諸相が眼に入る。今回課題作中、「隣」A B共、未画の縦画は太細に関係なく弛く、緊まりがない。他にも「隔、取」の縦画も同様に難。みなさんの筆で『活』を注入するよう期待したい。



主な文字について

肯 ヷト、筆順どちらでも可。與 下辺二点離して打つ。蘭亭「興、與」参照。鄰 俗に「隣」に作ると字典に。縦画が生命。翁 A三画目上に出す。相 A黄庭堅を借用、ただ未画に甘さ。對 A B少々筆意に相違。隔 A B行と草。取 ヷ又、上下二つの点として。盡 A横画四本の後タテ、左に一点、右に二点が多い。他にも各種。餘 草体多い。字典で確実に。

訳：しいて隣のおじさんと差し向かいで飲みませんか。垣根こしに呼びよせて、残りの酒を飲みほさせましょう。

予告 昇試第一部漢字 (三月二十二日締切)

山童揖客松邊坐

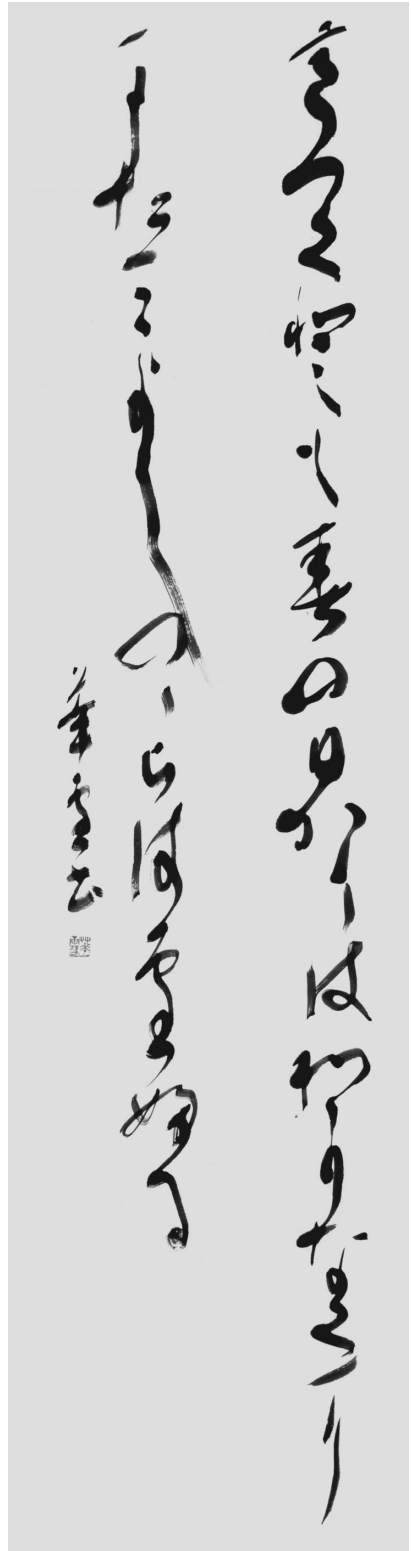
却背春風掃落花 (黄鎮成)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

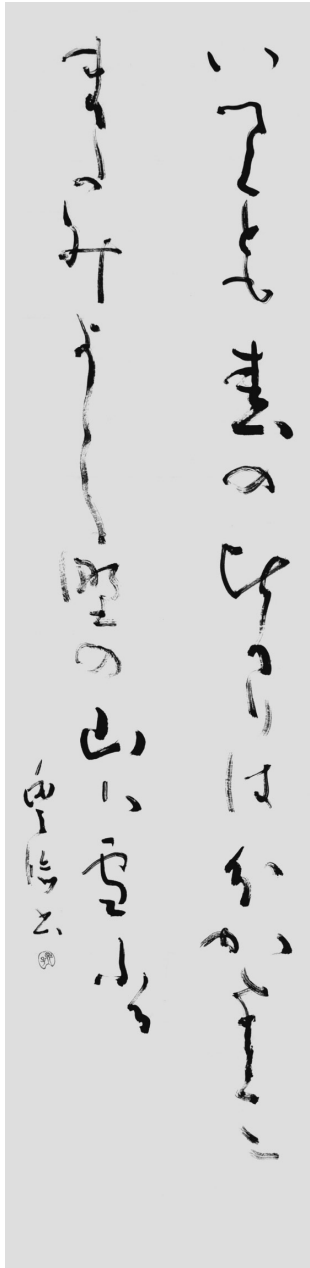
いづくとも春のひかりはわかなくにまだみ吉野の山は雪ふる (三十六歌仙 凡河内躬恒)
 意つ久登も春の日かりは和可な久耳万た三よしの、山は雪婦る



B

吉原豊臨先生書

いつくとも春の比可りは分か奈く二ま多みよし野の山八雪ふる



学 び 方

今月の華雪先生のお手本では、出だしは筆に墨がタツプリのっているので、少し小さめに書きはじめ、「意つ久」と連綿をきかせています。その次の四文字「登も春の」は単体表現で、墨の色を濃く見せています。さらに連綿「日かり」単体表現「は」連綿「和可な久耳」と書き進むうち、段々墨もかすれてきますので、無理にひっぱらずに書いてください。初句から第四句まで気を抜かず流れにのせてください。二行目四句目の「万た三よし」は渴筆をきかせましょう。ゆっくりと味わうように筆を進めてください。結句で墨つき、やはり墨色を生かす為「山」は大きくならないようにしています。そして「雪婦る」と連綿で穏やかに書きあげましょう。

三十六歌仙は、藤原公任の「三十六人撰」に選ばれた三十六人の優れた歌人の総称。三十六人撰には、柿本人麿から中務までの歌百五十首が選ばれている。凡河内躬恒は平安時代前期の歌人で、官位は低かったが、紀貫之、紀友則、壬生忠岑と共に、古今和歌集の撰者を務めた。代表歌に「心あてに折らばや折らむ初霜のおきまどわせる白菊の花」がある。

予告 昇試第一部かな (三月二十二日締切)

春の野に霞たなびきつら悲しこの夕かげに鶯鳴くも (万葉集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

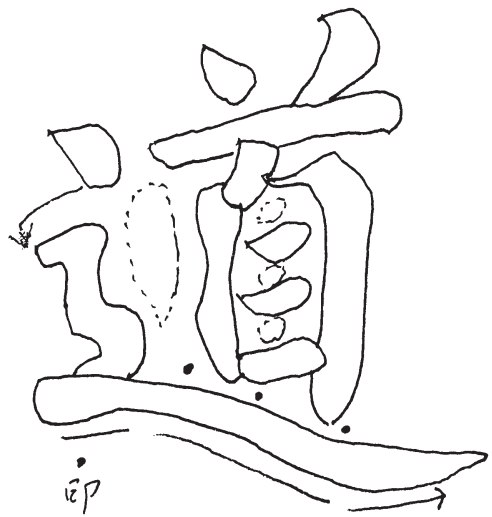
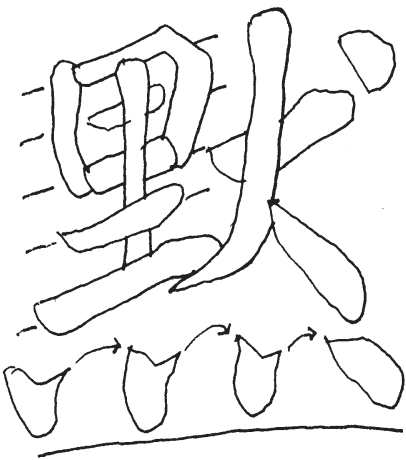
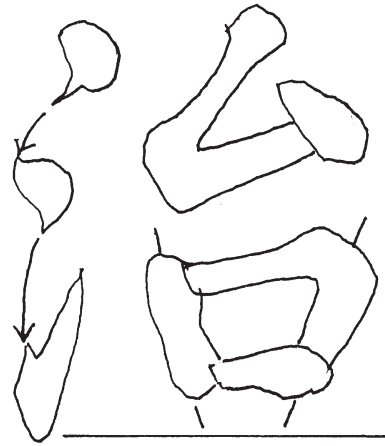
道を治むるには玄黙を尚たつとぶ(耶律楚材)



訳：道をおさめ修業するには、沈静が大切である。
▼注意：…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



道・黙 について

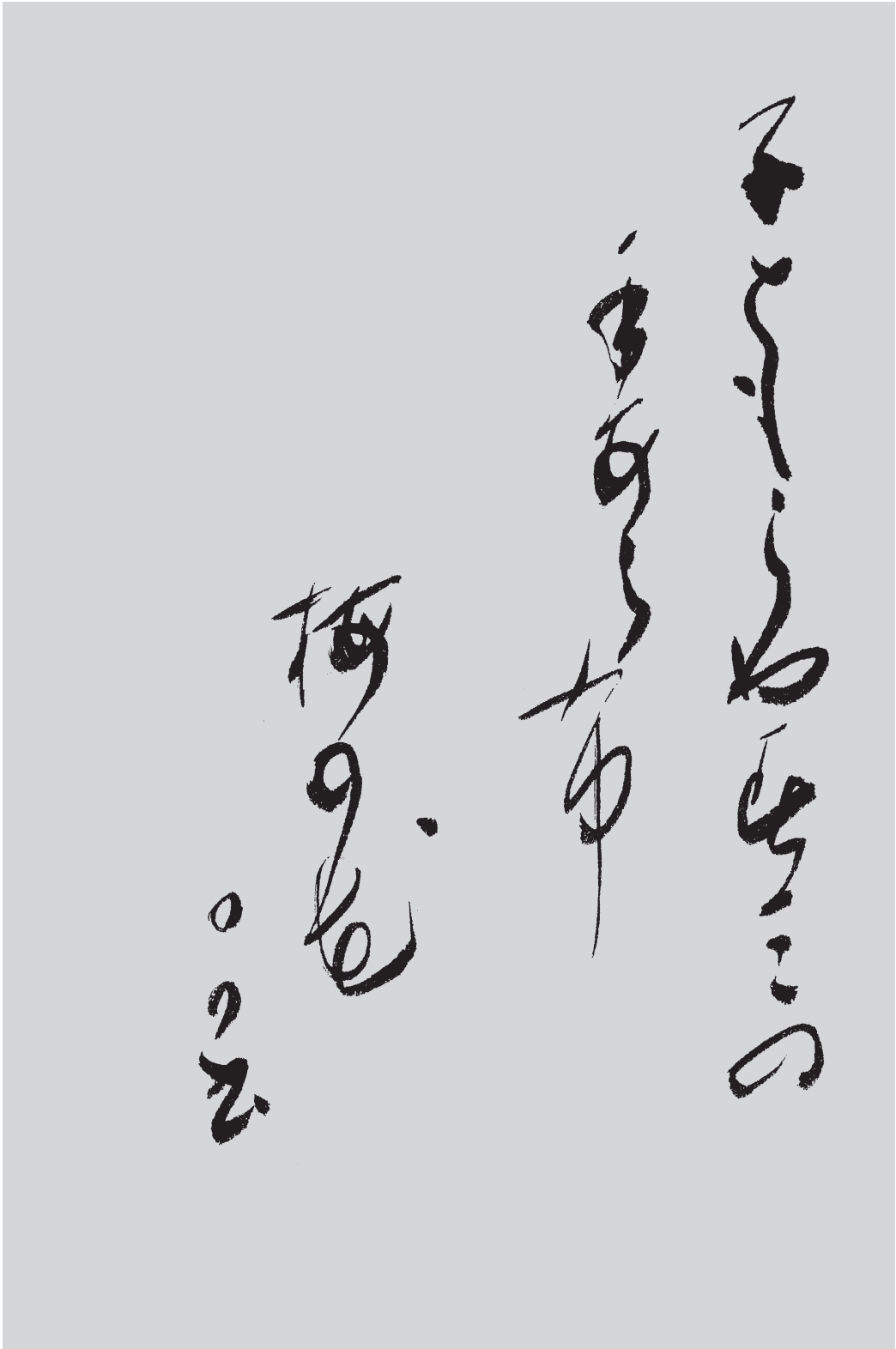
下方に、ゆるい形の「治」が
 玄に対して、広がりを見せ
 ている。「道、黙」。その主点は、
 「ニニヨウ」とレニカ。「この用筆
 とスライス」に在る。この刻首
 によって一字を生きさせた。

平岡華雪先生書

こどもらや墨の手あらふ梅の花(犀星)

予告 昇試第二部かな(三月二十二日締切)

青柳のかつらぎ山のあさみどり霞たなびく峰のはる風(本居宣長)



今までは二文字連綿の自信と
 連綿は、こころ、くちや、まをこ、
 あら、のを、の二文字連綿。

「ら」が並立の散らばりながら、連綿リズムに従って
 自然の姿容を期待したい。筆意独自の表出は「布」の字にあり。
 これだけの大きささとする調和、融合させようか。みずさんの腕の試み許。
 「のを」の長い連綿線、ほまのよい線に挑んで書きたい。

難波陽石先生担当

石鼓文 (紀元前5〜4世紀)



(第五鼓)

君子即涉。々馬絶流。汧段泊々。蕪々孔媚。舫舟西逮。

君子は涉に即き、馬を渉して流れを絶る。汧や泊々たり、蕪々として孔だ媚し。舟を舫べて西に逮び、

△解説とポイント▽

—— 石鼓文と呉昌碩 ——

・呉昌碩は詩・書・画・篆刻に精通し「四絶」と称賛され、中国近代で最も優れた芸術家である。特に篆刻に対する興味は十歳すぎから始まったという。

その印はかれに先だつ名家はくまなく採りこみ、秦漢を宗とし「膽敢獨造」の精神を発揚したといわれているが、その基づくところは「石鼓文」で、これは終生精力をこれに注いだ。

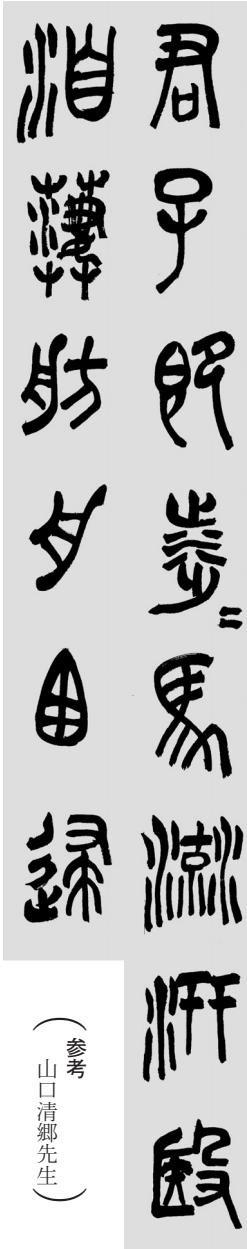
・呉昌碩は生涯数多くの石鼓文の臨書作品を残しているが全臨はそう多くはない。

その特徴は、原本の石鼓文より更に縦長になっている部分が多い。殊に脚部にそれを多く見ることが多いのは、

※条幅臨書部は出品無料です。是非チャレンジを!

呉昌碩の臨本が更に小篆に近い姿になっていると言えるわけで、この点も理解した上で再臨する必要があるし、原本と対比してそれを修正して臨書するのも一つの態度だと思う。

・ともあれわが国の石鼓文研究にとって、呉昌碩は大きな影響力をもたらした。師の山口清郷先生、先師辻本史邑先生など多くの書家が学んでいる。



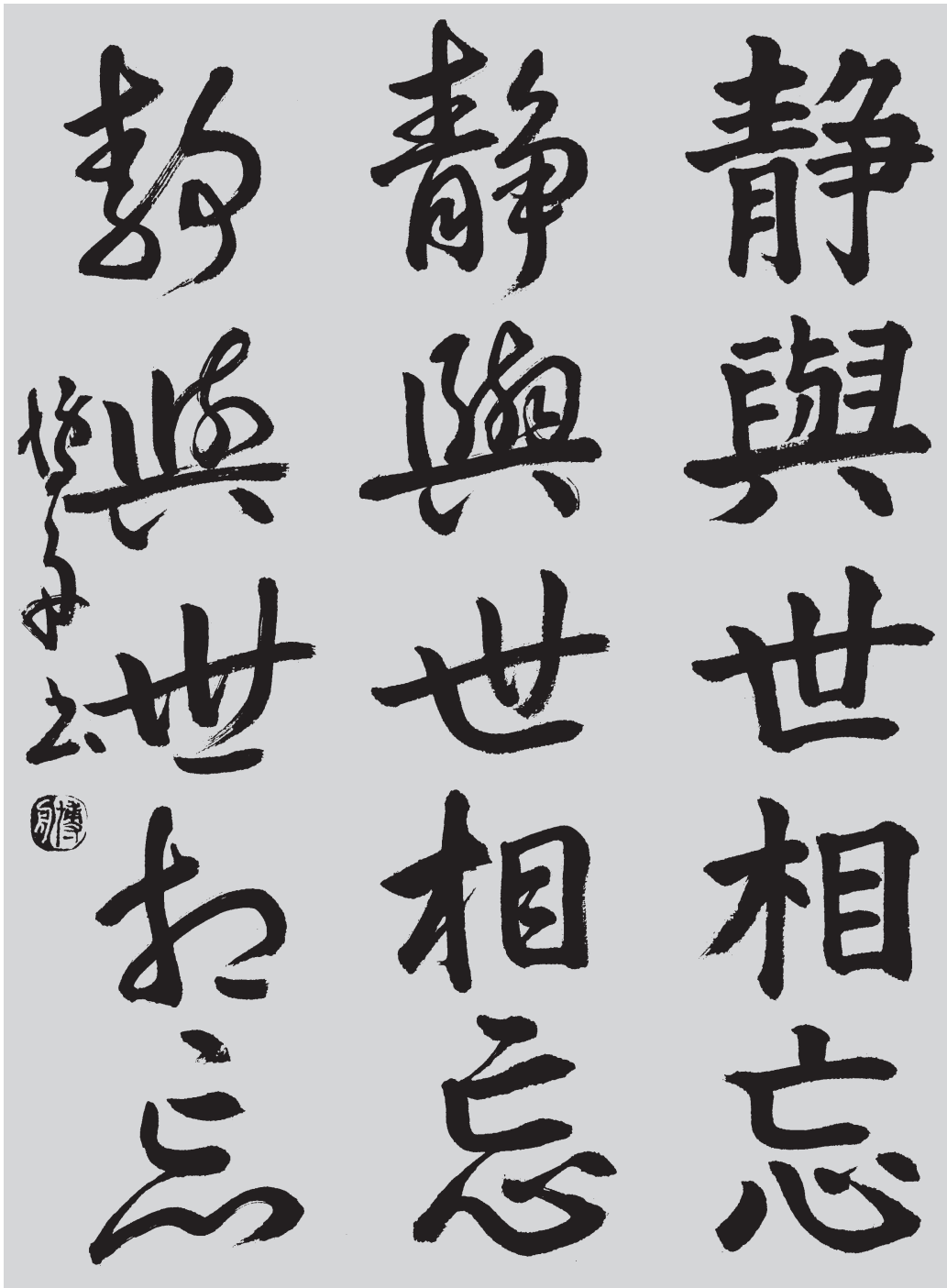
参考

(山口清郷先生)

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

北 沢 博 舟 先 生 書

静せい與よ世よ相忘わす（黄鎮成）
静世せいよと相忘あひわする。 訳：静せいにして心こころを塵外ちんがいに置おくから世よとあい忘わすれるのである。



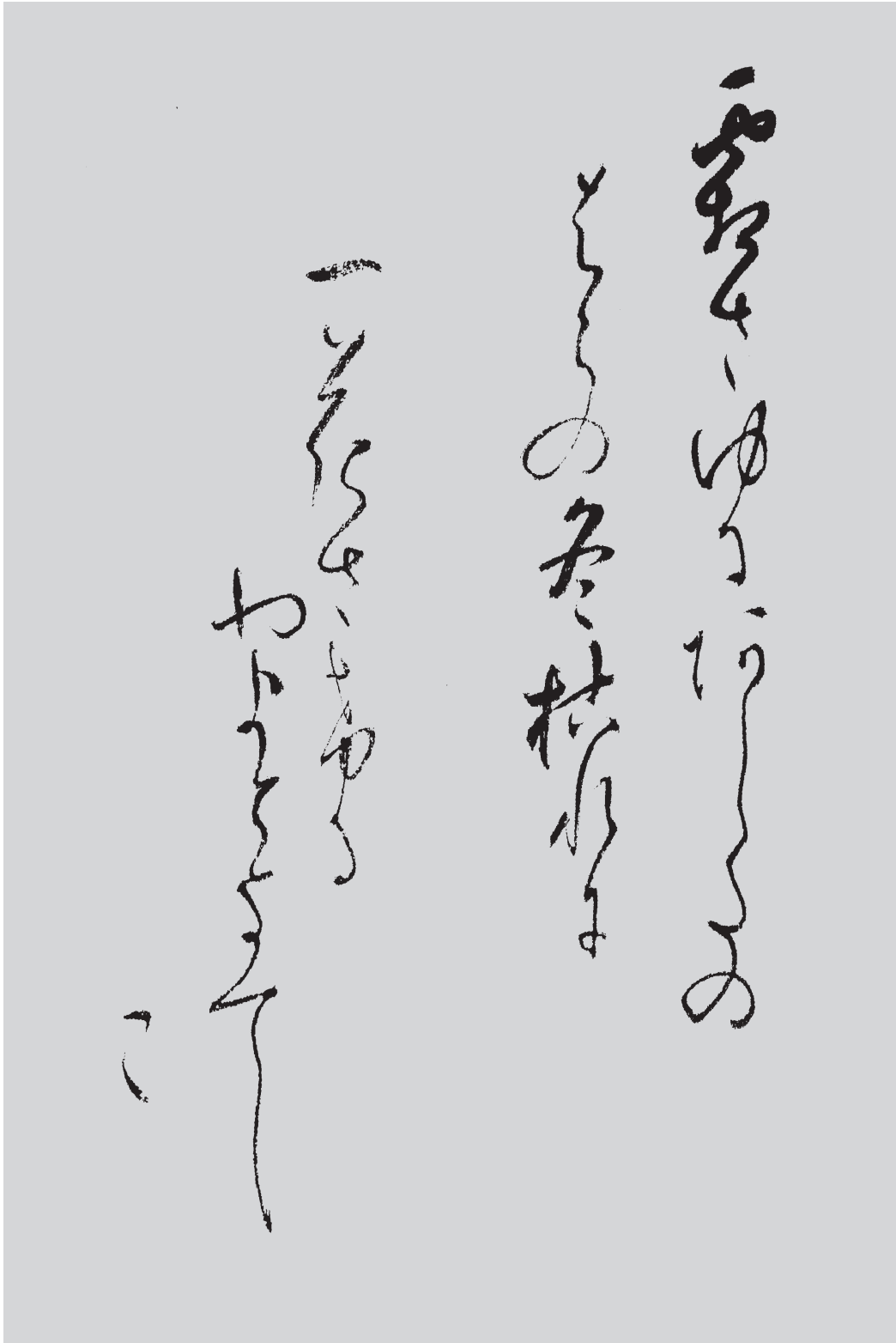
予 告 昇 試 第 二 部 漢 字 (三 月 二 十 二 日 締 切)

吾 志 在 烟 霞 (陳 天 錫)

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

高塚竹堂先生書

霜さゆるあしたのはらの冬がれにひと花さけるやまとなでしこ（拾遺愚草 藤原定家）
霜さゆる阿し多の者らの冬枯れ一花さ希るや末と奈てしこ

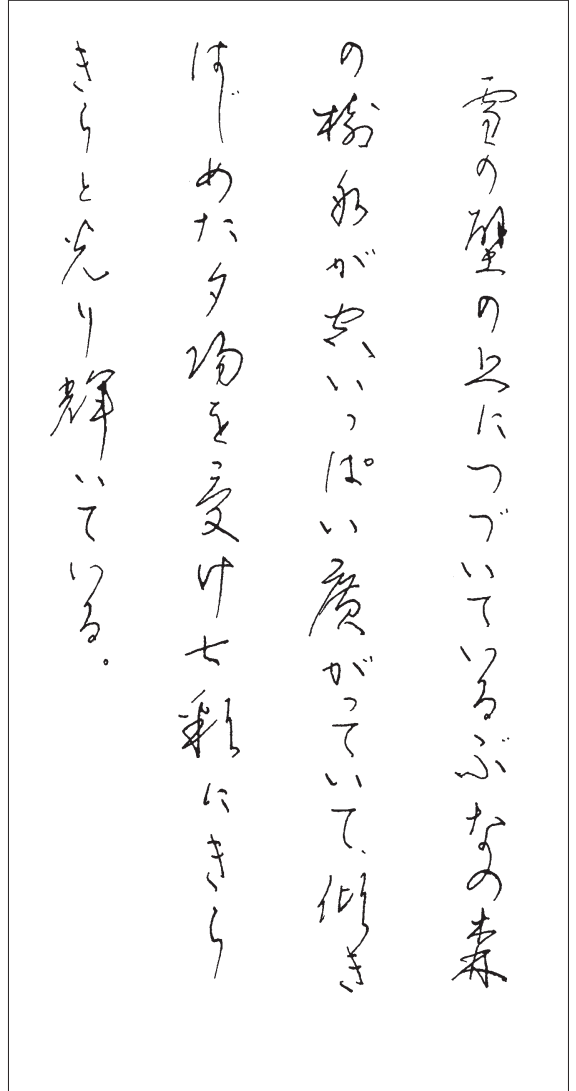
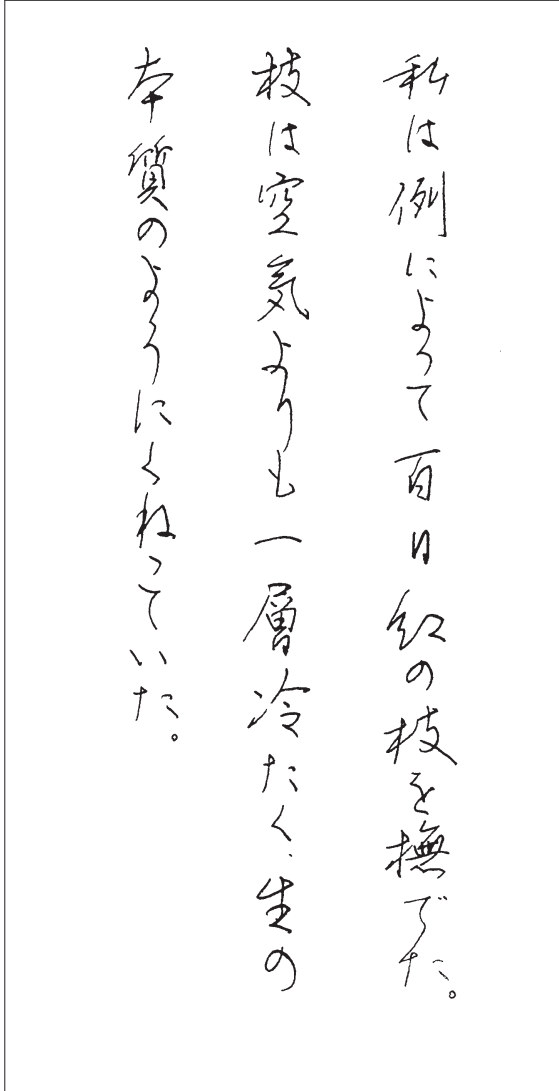


石原春香先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

雪の壁の上につづいているぶなの森の樹氷が空いっぱい広がっていて、傾きはじめて夕陽を受け七彩にきらきらと光り輝いている。

「いよいよ華やく」 瀬戸内寂聴

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 石原春香先生

課題2 〒三七〇〇〇八七

高崎市楽間町三三四一二

課題2 (初段階以下)

私は例によって百日紅の枝を撫でた。枝は空気よりも一層冷たく、生の本質のようにならなっていた。

「草の花」 福永武彦